

池田松川学校給食センターの建替えを機に 有機・低農薬な地元産農産物を増やし、安全な給食と食育の推進を!

池田松川学校給食センターの建替えは、松川中学校のテニスコート地（以後、松川中）に建設し、親子方式（※1）で行うことがほぼ決まりました。

給食センター問題の経過と共産党議員団の対応を報告します。

給食センターは昭和56年から池田町と松川村の施設組合で運営されてきました。現施設が老朽化し、衛生管理基準に合わなくなったことから、建替えが論議されてきました。池田松川施設組合教育委員会は平成22年10月に建替えの条件と候補地（池田町上原商店跡地、松川村中）の比較を示し、候補地の選定を両町村に求めました。

松川村は早くから建設地を松川中に決めていました。池田町は上原商店跡地を候補地としましたが、この問題は町議選後の新議会に持ちこされました。

新議会では上原商店跡地でのセンター方式（※2）を決め、町に交渉を求めました。町は松川村と交渉しましたが、松川村は松川中での建設を主張し折り合わず、両町村別々に建設する方向になりました。

その後、町民や松川村議会からの要請があり、議会として再検討し、松川中での親子方式の考えが多数を占めました。これを受け、8月3日池田松川施設組合全員協議会でこの案が決定されました。共産党町議員団は学校給食は自校方式（※3）が最良と考えますが、町の財政状況、町民の意見を尊重して松川中での親子方式に賛成しました。しかし、そのなかでも、未来を担う子どもらに安全・新鮮で美味しい給食を実現し、食材の地産地消や食育の推進のため次の提案をしました。

①野菜の地元生産物の利用率を現行の12%から「池田町食による健康づくり計画」に示された30%に近付くように努めること。その場合の池田・松川の野菜の使用割合は池田・松川の給食数の割合にすること。

②安全な給食を実現するため地元食材は有機・低農薬の農産物の使用を目指すこと。

町は有機・低農薬の農産物を生産する人を増やすため指導的役割を果たすこと。

③給食を通じて子どもらが食の重要性を学び、生産者との交流で農業の大切さを学び、食事づくりが自分できるようになる食育を進めること。

この提案に対し、町長から努力する旨の回答を得ました。

愛媛県今治市では学校給食で子どもに安全な食を提供しようと有機農産物の生産を始めました。今では「食と農のまちづくり」条例を制定し、有機農産物の地域食料自給率を高める取り組みを行い、低価格で安全な学校給食を実現していると報告されています（コモンスズ発行、安井孝著：地

産地消と学校給食）。今治市での実践は大いに研究してみる価値はあると思います。

池田町でも給食への食材提供を機に、有機・低農薬な農業を推進し、食の安全を確保してトンボやタニシが増え自然生態系豊かな町を目指すべきと考えます。

簡単な課題ではありませんが、「どうやったらできるか」の視点でみんなで力を合せ、一步一步着実に実現できればと思います。今後も学校給食の問題は取り組んでいきます。

1 親子方式：特定の学校で調理し、他の学校に配送する方式。

※2 センター方式：学校以外の一か所で調理して、各学校に配送する方式。

※3 自校方式：それぞれの学校で調理する方式。



東日本大震災支援物資ご提供ありがとうございます。

日本共産党中信地区委員会は8月5日から8日まで岩手県大槌町釜石市に支援物資を届けました。物資を提供して下った皆さまに厚く御礼申しあげます。

議会改革等推進特別委員会で8月3日大町市の議会基本条例の勉強に行ってきました。

大町市議会は近隣に先駆けて議会基本条例を制定しました。1年4カ月間で21回の委員会と5回の全議員検討会などで条例制定にこぎつけたそうです。その頑張りを感じました。評価できると思った点は次のとおりです。

- ・市民とのテーマを設けた意見交換会を実施し、そこで出された要望を政策調整委員会で振り分けて各委員会で検討し政策提案に活かすシステム。
- ・理事者の提出条例案に書式により分りやすい説明を義務づける条項。
- ・議員間で賛否が分かれた時、議員間の討議を行うシステム。